

資料編

1. 農家意向調査：調査票

三富平地林での聞き取り調査項目

日付 _____

採録者 _____

✓欄

対象者 _____

【家族構成】

同居者について

名前	年齢	性別	続柄

他出者について

名前	年齢	性別	居住地	訪問頻度	続柄

要介護者の有無について デイケア 病院 老人ホーム

後継者について

- いる いない 未定
- いるのであれば誰が後継者になるのか
他出子 である でない

- 娘 息子 孫 親戚 その他
- 近くに住んでいる 遠方に住んでいる
- 既婚 未婚 結婚予定
- 農業の継続の可能性について

【相続】

前回の相続

- いつ？
- 相続税の規模

山林	農地	宅地
山林	農地	宅地

土地所有の変化

今度の相続

- いつごろ？
- どんなかたちで？
- 相続制対策について

【仕事】

仕事は何をしているか？

専業農家	兼業農家		非農家
	一種	二種	
			仕事は？
	(仕事？)		

車の所有 交通手段
台数

目的	主な使用者	車種

【農業】

販売しているか、非販売(自家用)か 配る先

→

作物	売上(円/年)	時期	販売ルート	肥料	問題点(害虫、病気など)	生産量	農業機械	作付面積

作物(羊)のブランド化についてどう思うか
有機栽培(落葉堆肥、灰、そのほか)についてどう思うか
家族以外の労働力について 雇用もしくは手伝い、ボランティアなど 他の農家への手伝いは？
補助金や利用している制度があるか

【農地】

- 貸し付けの 有 無
- 耕作放棄地の 有 無
- 所有地以外の利用の 有 無

□ 【これまで・いまのヤマの管理・利用】

- 薪 いつまで利用していた？ 1シーズンの利用量は？単位(棚or束)
 その目的は？燃料だけ？ 木炭生産の有無
 ストープ ボイラー 囲炉裏
 伐木造材方法 運材方法 乾燥場所
 最近、高級薪ストーブが普及してきたが、使う意志があるか？
 チェーンソーの所有の有無

- 落葉 いつまで利用していた？ 1シーズンの利用量は？単位(かご？)
 その目的は？堆肥だけ？

堆肥は畑と苗床？

- 土地利用 落ち葉掃き 誰がいつ頃おこなうのか
 工場や資材置き場への貸出、売却の有無

時期	面積	貸付先	契約状況	目的(相続税対策など)

- 所有地以外の管理・利用の有無

- 管理 除草・下草刈 方法(誰がいつ頃どんな形で)
 最後にやった伐採はいつ？
 ゴミ拾い・見回り

【今後のヤマの活用】

- ヤマとして残しておくのか、それとも売却あるいは企業に貸出すのか
- 残す場合 ① なぜヤマを残すのか
 ② ヤマは整備するのか、現状のままにするのか
 ③ ヤマの整備にはどのくらいの費用が必要か
 ④ 後継者がいない場合はどうするのか
- 売却あるいは貸出 ① なぜ売却または貸出をするのか
 ② 売却または貸出す企業は決まっているのか
 貸出の場合 ⇨ ③ どのくらいの額で契約したのか
 ④ 契約期間はどのくらいか
 ⑤ 薪プロジェクトで利益が出た場合でも売却あるいは貸出すのか
 ⑥ ⑤で売却・貸出の場合にそれはなぜか
- 景観の維持についてどう思うか
 大事だ あまり気にしない どちらともいえない

【地域とのつながり】

- 区の集まりの範囲は？ 富？ 区長の選出 任期
- 農家の集まりは？
- ボランティアとのつながりは？
- 地域のイベントなどに参加することがありますか？
- 回答者が一番よく連絡を取っている地域の人は誰か？
- 新規住民(ここ10年くらい)がいる？いない？好ましい？好ましくない？

頻度	メンバー	活動内容	目的

【生活習慣】

- 伝統的な料理、お菓子などがあるか？
- 伝統的な行事があるか？
- 交通手段について不便があるか？
- 買い物や病院はどこに行くか？

2. サンプル林調査：調査票

(別記様式第2号)						
標準地調査表						
区分	a-1	標準地番号			調査年月日	2014/1/10
					調査者	井上・小見寺・永井
現場調査						
種別	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	コナラ	15	26	76	0.3496	
2	エゴノキ	6	6	20	0.0086	
3	エゴノキ	5	10	34	0.0181	
4	エゴノキ	4	4	10	0.0026	
5	コナラ	15	22	64	0.2573	2又1-1
6	コナラ	17	36	112	0.7288	2又1-2
7	エゴノキ	5	4	14	0.0033	
8	イヌシデ	10	16	46	0.0919	
9	アオハダ	4	4	10	0.0026	
10	アオハダ	4	4	12	0.0026	
11	リョウブ	4	6	16	0.0055	株立ちあり
12	エゴノキ	3	12	36	0.0144	
13	コナラ	17	46	148	1.1427	
下層植生						
標準地平均						
種別	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体		8.4	15	46	0.2022	
樹種別	コナラ	16.0	33	100	0.6196	
樹種別	クヌギ	-	-	-	-	
樹種別	ヤマザクラ	-	-	-	-	
樹種別	エゴノキ	4.6	7	23	0.0094	
樹種別	イヌシデ	10.0	16	46	0.0919	
樹種別	アオハダ	4.0	4	11	0.0026	
樹種別	リョウブ	4.0	6	16	0.0055	
樹種別	ヒサカキ	-	-	-	-	
標準地合計						
		本数 (本)	材積 (m3)			
全体		13	2.6280			
樹種別	コナラ	4	2.4784			
樹種別	クヌギ	0	0			
樹種別	ヤマザクラ	0	0			
樹種別	エゴノキ	5	0.0470			
樹種別	イヌシデ	1	0.0919			
樹種別	アオハダ	2	0.0052			
樹種別	リョウブ	1	0.0055			
樹種別	ヒサカキ	0	0			

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	a-1	標準地番号		調査年月日	2014/1/10
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
1	コナラ	13	16	48	0.1226	2又1-1
2	コナラ	13	20	64	0.1846	2又1-2
3	エゴノキ	10	12	36	0.0542	株立ち多数
4	ヒサカキ	5	8	28	0.0120	株立ち2-1
5	ヒサカキ	5	8	26	0.0120	株立ち2-2
6	ヤマザクラ	13	10	30	0.0517	
7	コナラ	10	10	30	0.0388	
8	コナラ	10	12	34	0.0542	2又3-1
9	コナラ	10	16	46	0.0919	2又3-2

下層植生

標準地平均

種別	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
全体		9.9	12	38	0.0691	
樹種別	コナラ	11.2	15	44	0.0984	
樹種別	クヌギ					
樹種別	ヤマザクラ	13.0	10	30	0.0517	
樹種別	エゴノキ	10.0	12	36	0.0542	
樹種別	イヌシデ					
樹種別	アオハダ					
樹種別	リョウブ					
樹種別	ヒサカキ	5.0	8	27	0.0120	

標準地合計

		本数 (本)	材積 (m ³)
全体		9	0.6220
樹種別	コナラ	5	0.4921
樹種別	クヌギ	0	0
樹種別	ヤマザクラ	1	0.0517
樹種別	エゴノキ	1	0.0542
樹種別	イヌシデ	0	0
樹種別	アオハダ	0	0
樹種別	リョウブ	0	0
樹種別	ヒサカキ	2	0.0240

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	a-1	標準地番号		調査年月日	2014/1/10
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	イヌシデ	12	16	48	0.1122	
2	イヌシデ	20	38	124	0.9622	
3	コナラ	12	16	52	0.1122	2又1-1
4	コナラ	12	14	46	0.0878	2又1-2
5	クヌギ	18	26	90	0.4272	
6	イヌシデ	20	28	84	0.5495	
7	ヤマザクラ	15	18	60	0.1781	6又6-1
8	ヤマザクラ	18	28	92	0.4894	6又6-2
9	ヤマザクラ	18	18	54	0.2176	6又6-3
10	ヤマザクラ	18	24	82	0.3688	6又6-4
11	ヤマザクラ	18	26	84	0.4272	6又6-5
12	ヤマザクラ	18	32	110	0.6252	6又6-6

下層植生 ヒサカキ、イヌシデ、イヌツゲ

標準地平均

種別	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体		16.6	24	77	0.3798	
樹種別	コナラ	12.0	15	49	0.1000	
樹種別	クヌギ	18.0	26	90	0.4272	
樹種別	ヤマザクラ	17.5	24	80	0.3844	
樹種別	エゴノキ					
樹種別	イヌシデ	17.3	27	85	0.5413	
樹種別	アオハダ					
樹種別	リョウブ					
樹種別	ヒサカキ					

標準地合計

		本数 (本)	材積 (m3)
全体		12	4.5574
樹種別	コナラ	2	0.2000
樹種別	クヌギ	1	0.4272
樹種別	ヤマザクラ	6	2.3063
樹種別	エゴノキ	0	0
樹種別	イヌシデ	3	1.6239
樹種別	アオハダ	0	0
樹種別	リョウブ	0	0
樹種別	ヒサカキ	0	0

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	a-1	標準地番号		調査年月日	2013/12/13
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
1	イヌシデ	6	6	18	0.0086	
2	ヤマザクラ	9	26	84	0.1994	
3	ヤマザクラ	10	26	76	0.2239	2又1-1 半分枯れている
4	ヤマザクラ	3	4	10	0.0019	2又1-2
5	イヌシデ	5	4	4	0.0033	
6	コナラ	10	34	110	0.3663	
7	コナラ	10	16	50	0.0919	
8	エゴノキ	6	6	20	0.0086	他、細3本
9	ヤマザクラ	16	22	76	0.2762	3又2-1
10	ヤマザクラ	16	30	104	0.4880	3又2-2
11	ヤマザクラ	16	30	98	0.4880	3又2-3
12	エゴノキ	6	8	24	0.0147	他、細4本
13	コナラ	16	40	126	0.8272	
14	エゴノキ	7	10	32	0.0262	3又3-1
15	エゴノキ	7	8	24	0.0174	3又3-2
16	エゴノキ	7	12	36	0.0366	3又3-3

下層植生

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
全体		9.4	18	56	0.1924	
樹種別	コナラ	12.0	30	95	0.4285	
樹種別	ヤマザクラ	11.7	23	75	0.2796	
樹種別	エゴノキ	6.6	9	27	0.0207	
樹種別	イヌシデ	5.5	5	11	0.0060	
樹種別	ヤマコウバシ					
樹種別	アオハダ					
樹種別	モクレン					
樹種別	リョウブ					

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m ³)
全体		16	3.0782
樹種別	コナラ	3	1.2854
樹種別	ヤマザクラ	6	1.6774
樹種別	エゴノキ	5	0.1035
樹種別	イヌシデ	2	0.0119
樹種別	ヤマコウバシ	0	0
樹種別	アオハダ	0	0
樹種別	モクレン	0	0
樹種別	リョウブ	0	0

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	a-1	標準地番号		調査年月日	2013/12/13
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	コナラ	14	22	70	0.2385	
2	コナラ	13	14	42	0.959	
3	コナラ	14	18	52	0.1651	
4	コナラ	14	18	52	0.1651	
5	コナラ	12	16	50	0.1122	3又1-1
6	コナラ	4	6	20	0.0055	3又1-2
7	コナラ	13	18	54	0.1521	3又1-3
8	コナラ	13	16	52	0.1226	
9	コナラ	13	18	54	0.1521	
10	コナラ	13	20	64	0.1846	
11	コナラ	13	18	60	0.1521	
12	コナラ	12	16	50	0.1122	

下層植生

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体		12.3	17	52	0.2101	
樹種別	コナラ	12.3	17	52	0.2101	
樹種別	ヤマザクラ	-	-	-	-	
樹種別	エゴノキ	-	-	-	-	
樹種別	イヌシデ	-	-	-	-	
樹種別	ヤマコウバシ	-	-	-	-	
樹種別	アオハダ	-	-	-	-	
樹種別	モクレン	-	-	-	-	
樹種別	リョウブ	-	-	-	-	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m3)
全体		12	2.5211
樹種別	コナラ	12	2.5211
樹種別	ヤマザクラ	0	0
樹種別	エゴノキ	0	0
樹種別	イヌシデ	0	0
樹種別	ヤマコウバシ	0	0
樹種別	アオハダ	0	0
樹種別	モクレン	0	0
樹種別	リョウブ	0	0

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	a-1	標準地番号			調査年月日	2013/12/13
					調査者	井上・小見寺・永井
現場調査						
番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
1	アオハダ	3	2		0.0005	合計3本株立ち
2	リョウブ	2.5	2		0.0004	合計4本株立ち
3	コナラ	15	16	54	0.1434	
4	コナラ	12	40	124	0.6030	
5	ヤマコウバシ	3	2		0.0005	
6	リョウブ	2	2		0.0003	
7	アオハダ	3	2		0.0005	
8	エゴノキ	6	8	20	0.0147	他、細2本株立ち
9	モクレン	3.5	2		0.0006	
10	コナラ	16	28	68	0.4300	
11	アオハダ	4	4		0.0026	
12	リョウブ	7	8	24	0.0174	2本株立ち1-1
13	リョウブ	3.5	2		0.0006	2本株立ち1-2
14	アオハダ	2.5	2		0.0005	株立ち多数(10本強)
15	コナラ	16	40	126	0.8272	
16	アオハダ	3	2		0.0005	
17	アオハダ	3.5	2		0.0006	
18	ヤマコウバシ	3	2		0.0005	
19	コナラ	18	20	64	0.2640	2又2-1
20	コナラ	18	30	96	0.5540	2又2-2
21	エゴノキ	4	4	14	0.0026	
22	エゴノキ	3.5	4		0.0022	株立ち3-1他、株立ち4本
23	エゴノキ	3.5	4		0.0022	株立ち3-2
下層植生						
標準地平均						
種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
全体		6.8	10	66	0.1247	
樹種別	コナラ	15.8	29	89	0.4703	
樹種別	ヤマザクラ					
樹種別	エゴノキ	4.3	5	9	0.0054	
樹種別	イヌシデ					
樹種別	ヤマコウバシ	3.0	2		0.0005	
樹種別	アオハダ	3.2	2		0.0009	
樹種別	モクレン	3.5	2		0.0006	
樹種別	リョウブ	3.8	4	6	0.0047	
標準地合計						
種別		本数 (本)	材積 (m ³)			
全体		23	2.8688			
樹種別	コナラ	6	2.8216			
樹種別	ヤマザクラ	0	0			
樹種別	エゴノキ	4	0.0217			
樹種別	イヌシデ	0	0			
樹種別	ヤマコウバシ	2	0.0010			
樹種別	アオハダ	6	0.0052			
樹種別	モクレン	1	0.0006			
樹種別	リョウブ	4	0.0187			

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	a 2	標準地番号			調査年月日	2013/12/13
					調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	コナラ	14	24	74	0.2798	2又 他方は枯れ
2	コナラ	6.5	8	22	0.0160	
3	コナラ	14	30	92	0.4214	
4	ヤマザクラ	15	50	170	1.1604	
5	コナラ	7	10	30	0.0262	
6	コナラ	15	30	90	0.4546	
7	エゴノキ	8	8	24	0.0201	5又1-1
8	エゴノキ	4	4	12	0.0026	5又1-2
9	エゴノキ	4	4	12	0.0026	5又1-3
10	エゴノキ	4	4	14	0.0026	5又1-4
11	エゴノキ	4	4	12	0.0026	5又1-5

下層植生 ヒサカキ4株

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体		8.7	16	50	0.2172	
樹種別	コナラ	11.3	20	62	0.2396	
樹種別	クヌギ	-	-	-	-	
樹種別	ヤマザクラ	15.0	50	170	1.1604	
樹種別	エゴノキ	4.8	5	15	0.0061	
樹種別	イヌシデ	-	-	-	-	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m3)
全体		11	2.3889
樹種別	コナラ	5	1.1980
樹種別	クヌギ	0	0
樹種別	ヤマザクラ	1	1.1604
樹種別	エゴノキ	5	0.0305
樹種別	イヌシデ	0	0

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	a 2	標準地番号		調査年月日	2013/12/13
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
1	コナラ	17	36	104	0.7288	
2	コナラ	13	18	54	0.1521	
3	コナラ	17	40	128	0.8842	
4	コナラ	17	36	116	0.7288	
5	エゴノキ	4	6	22	0.0055	2又1-1
6	エゴノキ	8	14	44	0.0562	2又1-2
7	エゴノキ	10	10	32	0.0388	2又、もう1本は枯木
8	エゴノキ	5	8	28	0.0120	11又1-1
9	エゴノキ	5	6	18	0.0070	11又1-2
10	エゴノキ	3	6	18	0.0019	11又1-3、他 細8本

下層植生 ヒサカキ1株

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
全体		9.9	18	56	0.2615	
樹種別	コナラ	16.0	33	101	0.6235	
樹種別	クヌギ	-	-	-	-	
樹種別	ヤマザクラ	-	-	-	-	
樹種別	エゴノキ	5.8	8	27	0.0202	
樹種別	イヌシデ	-	-	-	-	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m ³)
全体		10	2.6153
樹種別	コナラ	4	2.4939
樹種別	クヌギ	0	0
樹種別	ヤマザクラ	0	0
樹種別	エゴノキ	6	0.1214
樹種別	イヌシデ	0	0

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	a 2	標準地番号		調査年月日	2013/12/13
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	コナラ	16	26	82	0.3753	2又1-1
2	コナラ	16	16	56	0.1540	2又1-2
3	イヌシデ	16	24	74	0.3241	
4	イヌシデ	10	16	50	0.0919	
5	クヌギ	10	34	104	0.3663	2又2-1
6	クヌギ	16	18	58	0.1991	2又2-2
7	エゴノキ	8	8	26	0.0201	3又3-1
8	エゴノキ	7	10	30	0.0262	3又3-2
9	エゴノキ	8	8	20	0.0201	3又3-3

下層植生

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体		11.9	18	56	0.1752	
樹種別	コナラ	16.0	21	69	0.2647	
樹種別	クヌギ	13.0	26	81	0.2827	
樹種別	ヤマザクラ	-	-	-	-	
樹種別	エゴノキ	7.7	9	25	0.0221	
樹種別	イヌシデ	13.0	20	62	0.2080	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m3)
全体		9	1.5771
樹種別	コナラ	2	0.5293
樹種別	クヌギ	2	0.5654
樹種別	ヤマザクラ	0	0.0000
樹種別	エゴノキ	3	0.0664
樹種別	イヌシデ	2	0.4160

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	a-2	標準地番号		調査年月日	2014/1/10
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	コナラ	8	12	34	0.0424	
2	コナラ	8	10	32	0.0303	
3	コナラ	8	10	30	0.0303	2又1-1
4	コナラ	15	24	74	0.3019	2又1-2
5	コナラ	15	18	54	0.1781	
6	コナラ	8	10	28	0.0303	
7	コナラ	15	28	88	0.4005	2又2-1
8	コナラ	15	30	88	0.4546	2又2-2
9	コナラ	15	16	44	0.1434	2又3-1
10	コナラ	9	8	26	0.0229	2又3-2
11	コナラ	15	30	92	0.4546	
12	コナラ	15	22	66	0.2573	

下層植生

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体		12.2	18	55	0.1956	
樹種別	コナラ	12.2	18	55	0.1956	
樹種別	クヌギ	-	-	-	-	
樹種別	アカマツ	-	-	-	-	
樹種別	ヤマザクラ	-	-	-	-	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m3)
全体		12	2.3466
樹種別	コナラ	12	2.3466
樹種別	クヌギ	0	0.0000
樹種別	アカマツ	0	0.0000
樹種別	ヤマザクラ	0	0.0000

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	a-2	標準地番号			調査年月日	2014/1/10
					調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	コナラ	15	32	96	0.5117	
2	ヤマザクラ	15	36	118	0.6532	
3	コナラ	15	28	90	0.4005	
4	コナラ	10	16	48	0.0919	
5	コナラ	15	24	70	0.3019	
6	コナラ	12	18	56	0.1393	

下層植生

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体		13.7	26	80	0.3498	
樹種別	コナラ	13.4	24	72	0.2891	
樹種別	クヌギ	-	-	-	-	
樹種別	ヤマザクラ	15.0	36	118	0.6532	
樹種別	アカマツ	-	-	-	-	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m3)
全体		6	2.0985
樹種別	コナラ	5	1.4453
樹種別	クヌギ	0	0.0000
樹種別	ヤマザクラ	1	0.6532
樹種別	アカマツ	0	0.0000

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	a-2	標準地番号		調査年月日	2014/1/10
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	コナラ	15	26	80	0.3496	
2	クヌギ	14	20	60	0.2003	
3	コナラ	15	26	80	0.3496	
4	アカマツ	16	46	138	1.1273	
5	コナラ	14	24	80	0.2798	
6	コナラ	15	30	92	0.4546	株立ち1-1
7	コナラ	15	28	90	0.4005	株立ち1-2
8	コナラ	14	16	54	0.1330	株立ち1-3

下層植生

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体		14.8	27	84	0.4118	
樹種別	コナラ	14.7	25	79	0.3279	
樹種別	クヌギ	14.0	20	60	0.2003	
樹種別	ヤマザクラ	-	-	-	-	
樹種別	アカマツ	16.0	46	138	1.1273	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m3)
全体		8	3.2947
樹種別	コナラ	6	1.9671
樹種別	クヌギ	1	0.2003
樹種別	ヤマザクラ	0	0.0000
樹種別	アカマツ	1	1.1273

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	b	標準地番号		調査年月日	2013/12/13
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	コナラ	10	18	46	0.1140	
2	コナラ	10	12	40	0.0542	2又1-1
3	コナラ	10	12	38	0.0542	2又1-2
4	コナラ	10	10	34	0.0388	2又2-1
5	コナラ	10	10	30	0.0388	2又2-2
6	コナラ	10	12	36	0.0542	
7	コナラ	10	30	104	0.2911	
8	コナラ	3	2	8	0.0005	2又3-1
9	コナラ	3	2	8	0.0005	2又3-2
10	コナラ	7	8	22	0.0174	
11	コナラ	4	6	16	0.0055	
12	コナラ	10	10	28	0.0388	
13	コナラ	2	2	2	0.0003	
14	コナラ	10	12	40	0.0542	

下層植生

標準地平均

種別	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体		8.0	10	32	0.0545	
樹種別	コナラ	8.0	10	10	0.0545	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m3)
全体		14	0.7625
樹種別	コナラ	14	0.7625

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	b	標準地番号		調査年月日	2013/12/13
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
1	コナラ	13	22	56	0.2199	2又1-1
2	コナラ	7	8	24	0.0174	2又1-2
3	コナラ	7	8	24	0.0174	
4	コナラ	16	38	116	0.7529	
5	コナラ	8	12	36	0.0424	
6	コナラ	6	8	20	0.0147	
7	コナラ	13	16	48	0.1226	
8	コナラ	7	4	12	0.0048	
9	コナラ	13	14	46	0.0959	
10	コナラ	7	12	36	0.0366	
11	コナラ	11	10	34	0.0430	

下層植生 ヒサカキ13本

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
全体		9.8	14	41	0.1243	
樹種別	コナラ	9.8	14	41	0.1243	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m ³)
全体		11	1.3676
樹種別	コナラ	11	1.3676

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	b	標準地番号		調査年月日	2013/12/13
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	コナラ	12	18	54	0.1393	
2	コナラ	12	24	72	0.2362	
3	コナラ	9	12	32	0.0482	
4	コナラ	12	22	66	0.2014	
5	コナラ	12	14	44	0.0878	
6	コナラ	12	12	36	0.0662	
7	コナラ	12	20	58	0.1690	
8	コナラ	12	14	50	0.0878	
9	コナラ	12	18	58	0.1393	
10	コナラ	12	18	54	0.1393	
11	コナラ	12	16	50	0.1122	
12	コナラ	12	16	52	0.1122	
13	コナラ	12	18	60	0.1393	
14	コナラ	10	14	38	0.0719	
15	コナラ	10	14	42	0.0719	
16	コナラ	10	14	40	0.0719	
17	コナラ	10	12	36	0.0542	

下層植生 ヒサカキ 5株

標準地平均

種別	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体	11.6	16	50	0.1146	
樹種別	コナラ	11.6	16	50	0.1146

標準地合計

種別	本数 (本)	材積 (m3)	
全体	17	1.9481	
樹種別	コナラ	17	1.9481

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	c	標準地番号		調査年月日	2013/12/13
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	エゴノキ	12	20	58	0.1690	他、細6本株立ち
2	エゴノキ	9	12	32	0.0482	
3	エゴノキ	5	6	20	0.0070	2又1-1 他、細2本株立ち
4	エゴノキ	7	14	42	0.0486	2又1-2
5	イヌシデ	3	2		0.0005	
6	コナラ	15	40	124	0.7706	
7	コナラ	15	36	114	0.6352	
8	エゴノキ	11	16	46	0.1020	2又2-1
9	エゴノキ	3	4	10	0.0019	2又2-2
10	ヤマザクラ	15	38	130	0.7014	
11	コナラ	15	30	94	0.4546	
12	ヤマザクラ	10	14	44	0.0719	

下層植生 シラカシ、イヌツゲ、ゴンズイ、ヒサカキ

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体		10.0	19	65	0.2509	
樹種別	コナラ	15.0	35	111	0.6201	
樹種別	クヌギ	-	-	-	-	
樹種別	ヤマザクラ	12.5	26	87	0.3867	
樹種別	エゴノキ	7.8	12	35	0.0628	
樹種別	イヌシデ	3.0	2	0	0.0005	
樹種別	ミズキ	-	-	-	-	
樹種別	シラカシ	-	-	-	-	
樹種別	ケヤキ	-	-	-	-	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m3)
全体		12	3.0109
樹種別	コナラ	3	1.8604
樹種別	クヌギ	0	0
樹種別	ヤマザクラ	2	0.7733
樹種別	エゴノキ	6	0.3767
樹種別	イヌシデ	1	0.0005
樹種別	ミズキ	0	0
樹種別	シラカシ	0	0
樹種別	ケヤキ	0	0

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	c	標準地番号		調査年月日	2013/12/13
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
1	イヌシデ	6	4	14	0.0041	
2	クヌギ	12	32	100	0.4004	
3	エゴノキ	7	10	32	0.0262	
4	イヌシデ	6	2	10	0.0011	
5	クヌギ	12	28	104	0.3134	
6	ミズキ	4	4	12	0.0026	
7	コナラ	12	22	76	0.2014	
8	エゴノキ	12	22	72	0.2014	根元~120cm程度枯れかかっている

下層植生 ヤツデ、ウツギ

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
全体		8.9	16	53	0.1438	
樹種別	コナラ	12.0	22	76	0.2014	
樹種別	クヌギ	12.0	30	102	0.3569	
樹種別	ヤマザクラ	-	-	-	-	
樹種別	エゴノキ	9.5	16	52	0.1138	
樹種別	イヌシデ	6.0	3	12	0.0026	
樹種別	ミズキ	4.0	4	12	0.0026	
樹種別	シラカシ	-	-	-	-	
樹種別	ケヤキ	-	-	-	-	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m ³)
全体		8	1.1506
樹種別	コナラ	1	0.2014
樹種別	クヌギ	2	0.7138
樹種別	ヤマザクラ	0	0
樹種別	エゴノキ	2	0.2276
樹種別	イヌシデ	2	0.0052
樹種別	ミズキ	1	0.0026
樹種別	シラカシ	0	0
樹種別	ケヤキ	0	0

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	c	標準地番号		調査年月日	2013/12/13
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	シラカシ	17	56	186	1.6392	
2	ケヤキ	5	4	12	0.0033	
3	エゴノキ	4	4	10	0.0026	
4	エゴノキ	5	4	12	0.0033	
5	エゴノキ	5	12	34	0.0253	
6	エゴノキ	4	4	10	0.0026	
7	コナラ	17	42	144	0.9670	
8	エゴノキ	5	4	12	0.0033	

下層植生 チャノキ、ナンテン、ムラサキシキブ、マユミ、イヌツゲ、ウグイスカズラ、ウツ

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体		7.8	16	53	0.3308	
樹種別	コナラ	17.0	42	144	0.9670	
樹種別	クヌギ	-	-	-	-	
樹種別	ヤマザクラ	-	-	-	-	
樹種別	エゴノキ	4.6	6	16	0.0074	
樹種別	イヌシデ	-	-	-	-	
樹種別	ミズキ	-	-	-	-	
樹種別	シラカシ	17.0	56	186	1.6392	
樹種別	ケヤキ	5.0	4	12	0.0033	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m3)
全体		8	2.6466
樹種別	コナラ	1	0.9670
樹種別	クヌギ	0	0.0000
樹種別	ヤマザクラ	0	0.0000
樹種別	エゴノキ	5	0.0371
樹種別	イヌシデ	0	0.0000
樹種別	ミズキ	0	0.0000
樹種別	シラカシ	1	1.6392
樹種別	ケヤキ	1	0.0033

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	d	標準地番号		調査年月日	2014/1/10
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	イヌシデ	19	20	66	0.2801	
2	イヌシデ	19	30	88	0.5894	
3	イヌシデ	19	24	72	0.3914	
4	イヌシデ	19	32	108	0.6635	
5	イヌシデ	20	36	114	0.8713	
6	イヌシデ	19	30	94	0.5894	
7	イヌシデ	8	10	34	0.0303	
8	イヌシデ	8	8	26	0.0201	
9	エゴノキ	10	8	22	0.0257	

下層植生 アオキ、イヌツゲ、アズマネザサ、シラカシ

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体		15.7	22	69	0.3846	
樹種別	コナラ	-	-	-	-	
樹種別	エゴノキ	10.0	8	22	0.0257	
樹種別	イヌシデ	16.4	24	75	0.4294	
樹種別	シラカシ	-	-	-	-	
樹種別	ケヤキ	-	-	-	-	
樹種別	ヒサカキ	-	-	-	-	
樹種別	スギ	-	-	-	-	
樹種別	ネズミモチ	-	-	-	-	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m3)
全体		9	3.4612
樹種別	コナラ	0	0.0000
樹種別	エゴノキ	1	0.0257
樹種別	イヌシデ	8	3.4355
樹種別	シラカシ	0	0.0000
樹種別	ケヤキ	0	0.0000
樹種別	ヒサカキ	0	0.0000
樹種別	スギ	0	0.0000
樹種別	ネズミモチ	0	0.0000

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	d	標準地番号		調査年月日	2014/1/10
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
1	コナラ	15	20	72	0.2160	
2	コナラ	15	36	116	0.6352	
3	コナラ	10	14	48	0.7190	
4	コナラ	15	26	86	0.3496	
5	エゴノキ	10	18	58	0.1140	
6	エゴノキ	4	4	12	0.0026	
7	エゴノキ	7	10	28	0.0262	2又1-1
8	エゴノキ	7	10	28	0.0262	2又1-2
9	コナラ	15	30	88	0.4546	
10	コナラ	15	30	112	0.4546	

下層植生 ゴンズイ、イヌツゲ、アズマネザサ、ヒサカキ、アオキ、ネズミモチ、ウグイスヤマコウバシ、アオハダ、シラカシ

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m3)	備考
全体		11.3	20	65	0.2998	
樹種別	コナラ	14.2	21	87	0.4715	
樹種別	エゴノキ	7.0	14	32	0.0423	
樹種別	イヌシデ	-	-	-	-	
樹種別	シラカシ	-	-	-	-	
樹種別	ケヤキ	-	-	-	-	
樹種別	ヒサカキ	-	-	-	-	
樹種別	スギ	-	-	-	-	
樹種別	ネズミモチ	-	-	-	-	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m3)
全体		10	2.9980
樹種別	コナラ	6	2.8290
樹種別	エゴノキ	4	0.1690
樹種別	イヌシデ	0	0.0000
樹種別	シラカシ	0	0.0000
樹種別	ケヤキ	0	0.0000
樹種別	ヒサカキ	0	0.0000
樹種別	スギ	0	0.0000
樹種別	ネズミモチ	0	0.0000

(別記様式第2号)

標準地調査表

区分	d	標準地番号		調査年月日	2014/1/10
				調査者	井上・小見寺・永井

現場調査

番号	樹種	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
1	ケヤキ	18	22	74	0.3144	
2	イヌシデ	7	10	32	0.0262	
3	シラカシ	25	40	142	1.3509	
4	シラカシ	5	6	14	0.0070	
5	シラカシ	5	6	18	0.0070	
6	イヌシデ	25	36	128	1.1134	
7	スギ	20	40	130	1.1373	
8	シラカシ	6	4	12	0.0041	
9	シラカシ	6	6	20	0.0086	
10	ヒサカキ	4	8	22	0.0094	
11	ネズミモチ	5	8	24	0.0120	
12	ヒサカキ	4	4	12	0.0026	

下層植生 アオキ、ヒサカキ、シラカシ、モウソウチク、シュロ

標準地平均

種別		樹高 (m)	胸高直径 (cm)	目通り (cm)	材積 (m ³)	備考
全体		10.8	16	52	0.3327	
樹種別	コナラ	-	-	-	-	
樹種別	エゴノキ	-	-	-	-	
樹種別	イヌシデ	16.0	23	80	0.5698	
樹種別	シラカシ	9.4	12	41	0.2755	
樹種別	ケヤキ	18.0	22	74	0.3144	
樹種別	ヒサカキ	4.0	6	17	0.0060	
樹種別	スギ	20.0	40	130	1.1373	
樹種別	ネズミモチ	5.0	8	24	0.0120	

標準地合計

種別		本数 (本)	材積 (m ³)
全体		12	3.9929
樹種別	コナラ	0	0.0000
樹種別	エゴノキ	0	0.0000
樹種別	イヌシデ	2	1.1396
樹種別	シラカシ	5	1.3776
樹種別	ケヤキ	1	0.3144
樹種別	ヒサカキ	2	0.0120
樹種別	スギ	1	1.1373
樹種別	ネズミモチ	1	0.0120

3. 安全な伐採マニュアル

チェーンソーの安全な使い方



1. はじめに

チェーンソーを使った、立木の伐採、造材作業は、死亡事故が発生することもある、危険を伴う行為であることを十分認識しておく必要があります。

安全衛生教育を受けたからといって、チェーンソーが「使える」ようになったわけではありません。あくまでも使う資格を取得したに過ぎません。

危険を感じたら作業を中断して安全な方法を考えて下さい。いくら考えても「怖い」という気持ちがぬぐえない場合は、迷わずプロに依頼しましょう。安全な作業方法が見つからないまま続けるのは、事故につながります。まず、危険を感じられるセンスを身につけて下さい。そのためには、「危険な作業をしている」という意識を常に持ち続けることが大切です。

チェーンソーの使い方、立木の伐採方法・造材方法は、いろいろな本等で紹介されているので、それらをよく読んでいただくことをおすすめします。ここでは、それらの書籍の紹介をすることで、一般論は省かせていただき、「安全」を中心に重要なポイントや裏技等を紹介させていただきます。

みなさんにも、爽快感のある伐採作業を安全に行い、作業後の美味しいビールを味わっていただきたいと思います。

2. 安全を確保する服装

安全な作業を行うはじめの一歩が、服装です。セーターやフリースなどを上に着ていると、また、上着の裾が広がっていたり、マフラーなどひらひらと出ていると、瞬時によける必要がある場合、引っかけやすくて危険です。また、肌の露出部が多いと怪我をしやすいため、夏場でも長袖を着用しましょう。動きやすく機能的な服装に心がけ、快適に作業を行ってください。次に、作業用の保護具について説明します。

(1) ヘルメット

ヘルメットは、あらためて言うまでもなく必ず着用しなくてはならないものです。弁当を忘れてもヘルメットだけは忘れないでください。自転車用のヘルメットは、通気をよくするために穴の開いたものがありますので、作業用には不向きです。また、子供用のヘルメットもありますので、子どもたちも着用するようにしましょう。飯能市を中心に活動している西川林業クラブでは、70個ほど子供用のヘルメットを保有していますので必要なときには問い合わせてください。

(2) イヤーマフ、耳栓

チェーンソーや刈り払い機を使う頻度の高い人は、ぜひ着用してください。イヤーマフは雑音の予防になるばかりでなく、冬期においては、保温効果もあります。

(3) フェースシールド（保護面）

飛び散る木くずから顔を守るのが、フェースシールド（保護面）です。チェーンソー作業では細かいゴミが目に入ることがよくあります。できるだけ、着用するようにして下さい。

(4) 防護ズボン、チャブス

日本では着用が義務づけられていませんが、欧米では着用が当たり前になっている保護具で、着用の有無により、危険度に雲泥の差があります。高温多湿な日本では、快適とは言えないかもしれませんが（特にズボン）、酷暑用もありますので着用を習慣づけるようにしましょう。

(5) 減振グローブ

かつてチェーンソーが普及した頃の頃は、重くて振動の激しいものでした。そのため振動障害で指先の血流が悪くなる人が多くいました。最近のチェーンソーは軽くなり振動も軽減されてきています。とはいえ、振動が無くなったわけではありませんので、減振グローブは着用しましょう。振動障害を防ぐには、減振グローブの着用はもとより、常に手を温め、長時間の連続使用を避けることが肝心です。

(6) 保護ブーツ

造材、枝払い作業中に、つま先を切ってしまう事故がよく起こります。そのため開発されたチェーンソー作業用のブーツです。地下足袋やスニーカーではつま先を守ることはできません。ただし、全て外国製で高価な物ですので購入をためらってしまうと思います。チェーンソー作業用の保護ブーツでなくても、つま先に鉄板の入った安全靴を履くようにしましょう。八戸森林組合では、数種類のブーツを取り扱っているため、作業頻度の高い人はぜひ問い合わせてみて下さい。

3. 始業前の点検

(1) 燃料とチェーンオイル

チェーンソーの燃料は混合ガソリンを使います。混合比は、通常25：1ですが、チェーンソーや混合オイルにより異なりますので取扱説明書をよく読んで下さい。混合比を正確に作らないとピストンやキャブレター不調の原因になります。

チェーンオイルは、給油時に必ず満タンにして下さい。使用中にチェーンオイルが無くなるとガイドバーが焼き付いて使えなくなります。

チェーンオイルの種類は、鉱物油系チェーンオイルと植物油チェーンオイル、最近では水溶性のオイルもあります。水溶性のオイルは、取り扱いがよく、服の洗濯が容易ですが、冬季に凍ってしまうことがあるので注意して下さい。植物油チェーンオイルは鉱物系に比べて価格が3割ほど高くなりますが、水溶性ほどではありませんが洗濯が容易なことと、生分解性のため環境保全を考えるとぜひこちらを使用することをお勧めします。

(2) ソーチェーンの張り

ソーチェーンの張り具合は、手で回せる範囲で一番強く張るのが基本です。きつすぎると焼き付けを起こしてしまいます。緩いとチェーンオイルをガイドバー全体に行きわたらせられないばかりでなく、チェーンが踊ってしまい、ガイドバーが摩耗してしまいます。また、新しいソーチェーンは、使用中に伸びて緩くなりますので、こまめにチェーンの張り具合を確認しましょう。

4. 始動方法

チェーンソーを始動するときは、エンジンがかかった瞬間に刃が回転し始めますので、必ずブレーキをかけて下さい。チョークを引き、スロットルを半開にして、スイッチをONにします。その後、チェーンソーを地面においてつま先で固定するか(写真・1)、右足の内ももで固定して(写真・2)スターターをひきます。左手に持ったままチェーンソーが宙に浮いた状態でスターターを引くことは、刃が脚に当たる可能性が高いので危険です。絶対にやめましょう。また、ロープを引くときに、ロープの遊びを取ってから引くようにしないとロープを痛めてしまいますので注意して下さい。何度か引くと、一瞬爆発音がします。そしてらチョークを戻して(スロットルは半開のまま)スターターを引きます。エンジンがかかったらスロットルを戻して、ブレーキを解除して下さい。その後、2分程度暖機運転してから作業に入ります。その後、バーの先端を地面に近づけて回転させ、チェーンオイルが出ているかを確認して下さい。

最初の爆発音がわからずにチョークを引いたままスターターを引き続けると、吸い込みを起こしてしまいます。スイッチをOFFのままスターターを引いても吸い込んでしまうことがあります。その時は、チョークを戻し、つま先でスロットルを全開にした状態でスターターを引いて下さい。エンジンがかかるはずでず。お試し下さい。その場合、チェーンソーをしっかり固定することは言うまでもありません。



写真・1



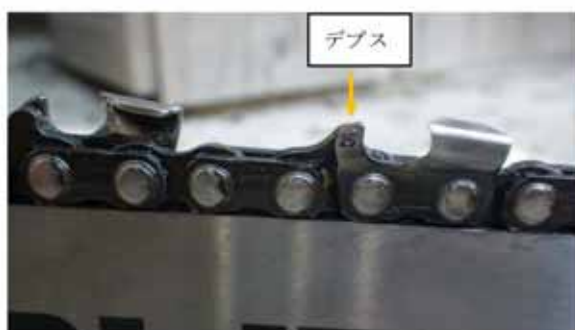
写真・2

5. 操作時の安全

チェーンソー操作時が一番怖いのは、キックバックです。キックバックはデブスが刃よりも先に木に接触することで起こります。そのため、先端で切るときに起こる現象です。キックバックは、反発力が強いので、腕でコントロールすることはできません。このことは常に頭に入れて操作して下さい。

ソーチェーンの切れが悪くなると、チェーンソー自体にも負担がかかりますし、曲がったり無駄な力が入ったりします。これは災害につながります。切れ味が落ちたら迷わずに目立てをして下さい。切れ味を長持ちさせる為には石や土を切らないことです。木に土がついている場合は鉋などで落としてから切るようにしましょう。

実際作業に入る前に、作業する人全員で作業手順、危険箇所の把握等、共通認識を持つことが大切です。チェーンソーが動いているときは、声をかけても聞こえないことがあります。言葉で合図しなくてもアイコンタクトで理解し合えるようになるといいでしょう。ことわざに「段取り八分に、仕事二分」とありますように、事前の準備がチェーンソー作業においても重要です。



6. 伐採時の安全

樹木を伐倒する時は、木を背中につけて上を見上げ枝の張り方、周囲の状況、重心を総合的に判断し伐倒方向を決めます。また、枝が絡みから合っていたり・蔓が絡んでいると思わぬ方向に倒れてしまいます。正確に伐倒方向を決められるようになれば、一人前といえるでしょう。伐倒方向の見極めは、実際にチェーンソーで伐倒するよりも難しいことだと思います。

伐倒する方向と重心が傾いている方向がずれている場合があります。というかほとんどがずれています。そのような場合はワイヤーロープ等で牽引する必要があります。細い木や重心のずれが少ない場合は、手で引けることもあります。チルホール等の牽引器具を用意するようにしましょう。牽引する場合は、樹高よりも離れたところで引くか、滑車を使って伐倒方向でない場所で引っ張ります。

伐倒方向が決まったら、木から30cmくらい離れたところに目印を立てておくことで正確な受け口が作りやすくなります。伐倒方向の目標を遠くにしておくことで、受け口の方向がずれてしまうことがあります。そのため、近くに立てた目印と木の中心を結ぶ線に対してチェーンソーのバーを直角になるようにするとほぼ思った方向に受け口を作ることができます。受け口をついたら、木を背にして股の間から受け口を覗いて方向を確認しましょう。方向がずれていたら修正してください。受け口により伐倒方向はほぼ決まります。追い口や牽引で変えられる伐倒方向はわずかですので、正確な受け口を作るようにしましょう。修正を繰り返していると受け口が大きくなっていくことがありますので、自信がない場合は、小さめに作って徐々に広げるようにするといいかもかもしれません。

追い口は、切りすぎると予期せぬ方向に倒れてしまい、切り方が足りないと木が元から裂けてしまいます。しかし、どこまで切れているのか反対側は自分ではよくわかりません。そのため、反対側で見ていて指示してもらおうといいでしょう。

伐倒時、必ず待避場所を確認しておいてください。また、周囲の人は、伐倒方向に入らないのはもちろんですが、木が裂けたときに後ろに避けた根本が飛んでくる場合がありますので伐倒方向の反対側も危険です。また、倒れるときに枝が落ちてくることはよくありますので、伐倒する木の根本付近も立ち入らないようにしましょう。

かかり木処理時の事故は後を絶ちません。適正な方法で処理するようにしましょう。細く見える木でも枝まで含めた重量は相当な重さになります。それに押しつぶされたときのことを考えてみて下さい。怪我ではすまない可能性が高いはずですよ。

7. 造材・枝払い時の安全

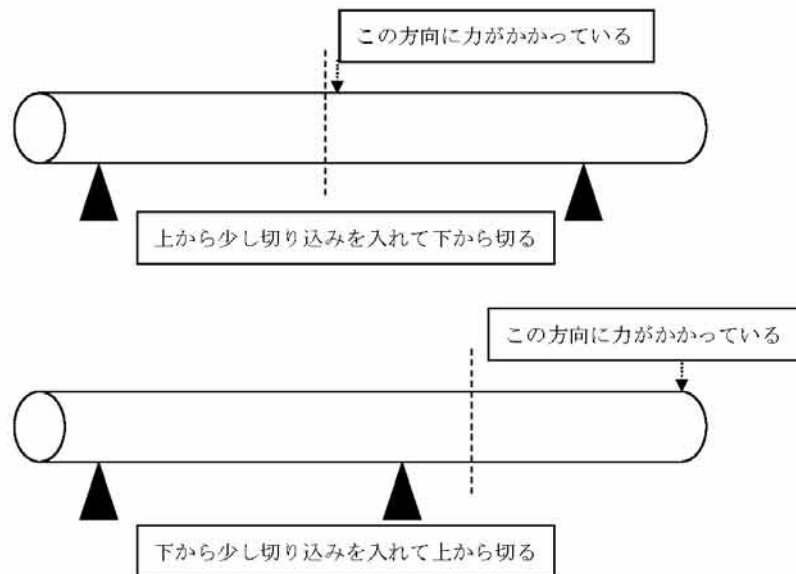
丸太を上から切るときは、ガイドバーの付け根でチェーンソーの重さを利用して切るようにします。また、チェーンソーについている爪をを使ってこの原理で切ると無理な力を加えずに切ることができます。

下から切るときは地面を切らないように、丸太を浮かせるか、地面を掘って切りましょう。土や石を切ってしまうと刃がつぶれて切れなくなります。

造材、枝払いをするとき大切なことは、どのように力がかかっているかを見極めることです。下に力がかかっているときは、上から少しだけ切って下から切ります。上から切るとバーを挟まれてしまい、下からだけ切ると材が裂けてしまうことがあります。この逆の場合もありますのでどのように力がかかっているかどのように力がかかっているか十分観察してから作業を始めて下さい。（下図参照）特に強い力がかかっているときは、注意が必要です。

枝払いで気をつけることは、地面に着いていたり、他の木に掛かっていたりする、突っ張っている枝の処理です。このような枝は、ガイドバーを入れた瞬間に挟まれてしまうこともありますし、折れたり裂けたりするばかりでなく、幹が急に動き出すこともありとても危険です。宙に浮いている枝から落とすようにして、重量を軽くしてから突っ張っている枝を処理して下さい。

また、腰よりも高いところの枝は切らないようにしましょう。高い位置でチェーンソーを使っているときに、キックバックを起こしたら刃が回転しているガイドバーが、頭に向かって跳ねてきます。瞬間的に強い力で反発しますので腕の力で押さえることはできません。キックバックを起こさないようにバーの下側で切っているつもりでも、見えない反対側に枝などがあるとキックバックを起こします。災害事例が多い行為のひとつですので絶対にやらないで下さい。



8. 作業終了後のメンテナンス

作業終了後は、メンテナンスを行い、次回すぐに使える状態にしておきましょう。

(1) 清掃

まず、本体からガイドバーを外し、ゴミを取り除きます。ガイドバーの溝とチェーンオイルの出口は、チェーンオイルが行きわたらなくなりますので特にきれいにして下さい。

次に、エアフィルターの清掃です。この時は、キャブレターにゴミが入るのを防ぐために、必ずチョークを引いてから行って下さい。通常は、ブラシでゴミを落とすだけでいいのですが、汚れがひどい場合は、生ガソリンで洗浄して下さい。混合ガソリンで洗浄するとガソリンが揮発した後残ったオイルにより、ゴミが付着しやすくなります。そして、たまには洗剤でよく洗うといいでしょう。

燃料タンクにゴミが入ってしまうことは、しばしばありますので、たまにはタンク内の余ったガソリンを捨ててきれいにして下さい。その時にフィルターの清掃を行うといいでしょう。

(2) 目立て

掃除が終わったら、目立てです。これは、作業終了後でなくても、切れ味が落ちたら行います。「目立ては苦手」という人も多いのではないのでしょうか。しかし、前にもお話ししましたが、切れないチェーンソーは、機械のためにも、人のためにもよくありませんので、気持ちよく切れるように目立てができるようになって下さい。チェーンソーを置いて目立てをするのが一般的ですが、チェーンソーを立てて(写真・3)行うことをおすすめします。置いたまま目立てをすると必ず左右どちらかの刃が擦りにくく刃の大きさが偏ってしまいます。また、下への力と横への力のバランスが難しく、バックスロープやフックになってしまうことがあります。チェーンソーを立てて行うことにより、バックスロープやフックになりにくく、しかも左右バランスよく擦れるばかりで無く、目の近くに刃がくるので擦れているかどうかの判断がきちんとできます。正確に目立てをするには、ヤスリを真っ直ぐ動かす必要があります。真っ直ぐヤスリを動かすコツは、肘からやすりの先端が一直線になるようにすることです(写真・4)。



写真・3



写真・4

また、刃の角度が、ずれてしまうことがよくありますので、ときどき目立てゲージ(写真・5)やアングルプレート(写真・6)を使って角度の調整を行うとよいでしょう。最後にデブスの調整も忘れずに行ってください。デブスが高すぎると刃の食い込みが悪くなり、切るのに時間ばかりかかってしまいます。

(3) 長期間使用しない場合の管理

長期間使用しない場合は、清掃し目立てが終了したら、湿気の少ないところに保管して下さい。燃料は、空にしてエンジンをかけ燃料切れで止まるまで回し続け、キャブレターの中の燃料まで取り除くか、生ガソリン(オイルを混ぜていない)を満タンに入れておくのがいいでしょう。後者の場合は、必ず生ガソリンが入っている旨の札を付けておいて下さい。間違えてエンジンをかけてしまうと焼き付けを起こします。混合ガソリンを入れたまま長期間放置しておく、キャブレターに残った燃料の中の、ガソリンだけが揮発して、残ったオイルでキャブレターを詰まらせてしまうことがあります。



写真・5



写真・6

9. おわりに

大事故1：中事故29：小事故300。このハインリッヒの法則はみなさんご存じだと思います。大事故とは、死亡事故から病院で処置するような傷害までを含む、重傷以上の災害です。中事故は、自分で処置できる程度の軽傷を伴う災害。小事故は傷害には至らなかった、ハットしたこと、ヒヤットしたことを指します。300回ハットすることがあると、そのうちの1回は大事故になるのです。その1回が、いつ起こるかわかりません。もしかすると最初の1回目に大事故が起こることもあり得るのです。また、この奥には、数千もの不安全な行動と不安全な状態が存在すといわれています。この不安全な行為の9割が人間の行動が原因です。不安全な行動と不安全な状態をなくすことが傷害をなくす道なのです。

ハットしたこと、ヒヤットした体験をノートなどに記録して残すことをおすすめします。末尾に記録簿の一例を載せておきますので参考にして下さい。ハットした経験は、恥ずかしいものではありません。危険に対して敏感だということの証です。そして、どこが危険だったのか、どのように対処すればいいのかを考え、それを仲間と共有することが大切です。

安全を確保するためには、面倒だと思わないことです。防護具の着用にしても、チェーンソーの操作にしても、安全を確保するための、ひとつひとつの行為は、たいした時間はかからないでしょう。自分の身を守ることには、プロもアマチュアも関係ありません。使用頻度が少ないアマチュアだからといって怪我をする確率が低いわけでは決してありません。

チェーンソーは便利な道具です。しかし、危険を伴う道具でもあります。だからといって、「危険だから使わない」のは、時間も労力もかかりもったいない話です。危険箇所を把握し万全の対策を取って、チェーンソーワークを楽しんで下さい。



数千件の「不安全行動 9」と「不安全状態 1」が存在

